

宝石——本物(?)とニセモノ(?)

訪問販売や通信販売のカタログを見たら、大きくて美しいルビーの指輪がたったの3万円! 「安い!!」と思った次の瞬間、頭をよぎるものは、「これって、本物? にせものじゃないの?」。

ちょっと待って下さい。“宝石”として扱われているものには、「本物」と「にせもの」とにはっきりと分けられないものがあります。そこで、もう少し区別してみると、これらは天然宝石・処理宝石・合成宝石・人工宝石・模造宝石の5つに分けられます。これを覚えておくと、いつかきっと役に立ちますよ。

宝石の分類

<天然宝石>

天然に産出する原石を整形、カット、研磨したもので、これこそまさにみなさんが本物と呼ぶものです。

<処理宝石>

天然に産出する品質の悪い原石に、加熱、薬品処理、着色などを施して品質を良く見せたものです。長い期間の間に品質が悪くなることがあります。原石の色が濃すぎるサファイアに熱を加えて色を薄くしたり、メノウの原石に着色したものなどがあります。

<合成宝石>

これは、天然宝石と化学的にも鉱物学的に同じものを人間が造ったもの。昨今では、ほとんどの宝石は合成することができるということです。そして、むしろ天然宝石より純粋で美しいものが安価に造られています。<人工宝石>天然には存在または発見されていないもので、実験室でできたものを装飾用に使われた場合を指します。例えば、レーザー用結晶として開発されたイットリウム・アルミニウム・ガーネット(YAG, $Y_3Al_5O_{12}$)やガドリニウム・ガリウム・ガーネット(GGG, $Gd_3Ga_5O_{12}$)などと言われているものがその例です。

<模造宝石>

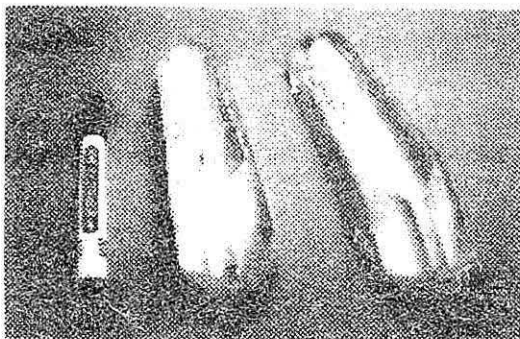
いわゆるニセモノで、みかけを似せて造ったもののことです。イミテーション。例えば、ガラスをカットして「ダイヤモンド」として販売す

れば、それは「模造宝石」ということになります。

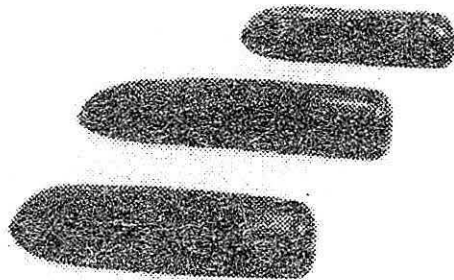
普通は、天然宝石と処理宝石が「本物」として認められ、合成宝石にはいくら美しくても一人前の宝石としては認められません。ほとんどの人は、「合成？　なんだニセモノか」と言われることが多いようです。たとえそれが、硬さや美しさが一級品で、鉱物学的に「本物」であっても・・・。

合成サファイアは時計の窓に・合成水晶は時計の水晶発振器として・合成ダイヤモンドは研磨材としてなど、「合成宝石」は宝石としてよりもむしろ工業的に使われることが多いのです。

人が宝石を求める心は、単純に美しさを追い求めているだけではないようです。天然に産出した宝石に引きつけられる人々の心は、何を求めているのでしょうか。自然？　それとも希少さ？



合成水晶の単結晶



合成ルビー・合成サファイアの原石

(赤羽久忠)



富山市科学文化センター

〒939 富山市西中野町1丁目8番31号
電話 (0764) 91-2123 (代表)

平成6年9月1日